５５号　令和４年３月１９日

＜学校教育目標＞　ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗　誠

感謝をもち続けた先にある幸せをつかめますように

　コロナ感染防止のため、呉市内小学校卒業式は３０分間で収めることとなっておりましたので、式では伝えられなかった内容をプリントにして卒業生に配付いたしました。その内容については次のとおりです。

　長引くコロナ禍のため、一生に一度しかない小学校の卒業式を縮小せざるを得ない状況がもう三度も続いています。しかし、皆さんのことを心からお祝いする気持ちは無限大です。また、穏やかに光り輝く瀬戸の水面や心地よい潮風に揺れる花壇の花々までもが、コロナに負けじと、皆さんのことを応援し、今日のよき日をお祝いしてくれているように感じます。
　卒業生の皆さん、ご卒業、本当におめでとうございます。
　今日、皆さんが手にする卒業証書は、小学校の全課程を修了した証であることはもちろん、１２年間を、日数で言えば、約４千日を生き抜いた証でもあります。人生、長生きできたとして百年。日数にすると、３万６千日。このうち、今、４千日が過ぎていきました。残りは３万２千日。これを長いと見るか、短いと見るか？しかし、そこまで生きられるかどうかは分かりません。そう考えてみたとき、何となく自分にはこれからもたくさんの時間があるように思えていたことが、実はそうではないかもしれないということや、だからこそ、かけがえのない今をどう生きるのかを改めて自分自身に問いかけてみたくなるのではないかと思います。
　これから皆さんが生きていく時代は、間違いなく変化の激しい時代です。教育の現場でも、いよいよ一人一人タブレットを使って授業を受けたり、家庭学習をしたりする時代になりました。こんな時代が来るとは、思いもしなかったことです。今後も猛烈なスピードで技術革新が進み、これまで果たしていたヒトの役割が大きく変化するのは間違いなさそうです。そんな中、これからどう時代を生き抜けばよいのか、不安はつきません。しかし、考えてみれば、そもそも、このような不安は、どんな時代に生きようと、なくなることはないのだと思います。遠い過去の時代を生きた人にも、その時代をよりよく生き抜くための不安があったはずです。ですから、皆さんも変に恐れることなく、自信をもって自分の時代に立ち向かい、生き抜いていけばよいのだと思います。そして、「幸せだと思える」人生を送ってほしいと思います。
　ところで「幸せだと思える」大元の気持ちとは、何でしょうか？同じものを手に入れても、ある人は幸せだと感じ、ある人は幸せだと感じない。人から見ると、あの人は幸せそうに見えないけれど、当の本人は幸せだと感じている。また、その逆も・・・。これは、一体どういうことなのでしょうか。それは、その人の中にある「感謝」の大きさによるのではないかと思います。日頃からその人が何に対して、どれくらいの感謝の気持ちをもって生きているのかということが、その人にとっての「幸せ」を決めているのだと思います。
　例えば、皆さんが自身の卒業証書を受け取ったとき、どんな気持ちがこみ上げてくるのでしょうか。小学校６年間が終了したという事実よりも、自分の頑張りを褒めたいという気持ちよりも、関わり、励まし、助け、導いていただいた多くの方々のおかげで今日があるということを真っ先に思えるとき、幸せが一層こみ上げてくるのだと思います。
　これまでに、ご家族が日々の生活のお世話はもちろん、皆さんが悩み苦しんでいる時は、自分のことのように悩み苦しんでくださり、うれしいときは自分のことのように喜んでくださったこと。さらには、自分の命をかけてでも、あなたたちを全力で守ろうとしてくださっていること。また、一方では、数々の出会いの中で、教え導いていただいた先生方。見守り、助けていただいた地域の方々。助け合い、分かり合い、ともに学び合った友達、先輩、後輩。そして、住み慣れた「わがまち阿賀」。このようなたくさんの自分への関わりに感謝の気持ちがもてるからこそ、幸せがこみ上げてくるのだと思います。
　これは、まさに今日の卒業生の皆さん全員の様子そのものだと思います。そう思える皆さんのことを私は誇りに思います。
　この感謝の気持ちというのは、これで十分ということがありません。何気なく通り過ぎてしまいそうなことにまでも、感謝の気持ちがもてるようになったとき、「幸せだと思える」気持ちがより深くなっていくのではないかと思います。例えば、健康で、普通に歩けている時には、気に留めることはあまりないのですが、病気になってみると、歩けることがどんなにありがたいことかを思い知らされます。水道からきれいな水が出るときは、当たり前のように使ってしまいそうですが、ひとたび水が出なくなると、それがどんなにありがたいことかを思い知らされます。このように、困った状況になって初めて、普段の当たり前が実は当たり前ではなく、どれほど、ありがたいことなのかということを改めて痛感します。そのようなことに、ふと立ち止まり、感謝の気持ちをもつことができる。そのことこそが、「幸せだと思える」生き方に通ずる道なのではないかと思います。是非、「感謝」の気持ちを持ち続けた先にある「幸せ」を卒業生全員がつかめるよう、心から切に祈り続けています。
　保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の立派に成長された姿を目の当たりにし、改めて保護者の皆様方がお子様に注いでこられた深い愛情と学校へのご理解・ご協力に、敬意と感謝の念でいっぱいでございます。これからも、引き続き深い愛情で、お子様をさらなる成長へと導いていただきますよう、心より願っております。
　また、本日は残念ながら来ていただくことは叶いませんでしたが、ご来賓、地域の皆様方、これまで、いつも変わらず学校や子どもたちのことを温かく、見守り、支えていただき、誠にありがとうございます。これからも引き続きどうぞよろしくお願い致します。
　　最後に、重ねて、卒業生の皆さんのさらなる成長と末永い幸せを心よりお祈りし、式辞と致します。

　　令和４年　３月１９日

呉市立阿賀小学校長　安宗　誠